

【実施報告】自然観察会「早春の森をめぐろう」

博物館講座

投稿者：：

Posted on : 2019-4-24 15:40:00

第6回 富良野の自然に親しむ集い 「早春の森をめぐろう」

シーズン最後の冬鳥観察をしようと3月24日（日）に自然観察会を実施しました。多くの水鳥を確認できましたが、あいにく雪が降りしきる天候で種類が判別できるほど観察できず、主役はすぐに小さな生き物にバトンタッチとなりました。



ボート乗り場付近のミズナラ（どんぐりのなる木）の冬芽をじっくり見ると、1ミリに満たない白いドーム状のふくらみが見つかりました。これはジョウザンミドリシジミの卵です。蝶類を研究する永盛会長が用意した標本をルーペで見ると、二つの卵のうち一つには黒い穴が開いていました。これは寄生蜂で世界最小のタマゴヤドリコバチが出てきた穴らしく、小さな卵に寄生するさらに小さな蜂（0.4mm！）がいることを知って驚きました。



その後、冬芽を観察しながら樹木の生態を学んだり、ニジマスの産卵床を観察した後、西側の「ハンノキの林」に移動し、姿を減らしつつある希少な湿地林の現状について学びました。

昨年度は天候不順による中止もありましたが、4回の集いを行うことができました。今年度は6回のイベントを計画しています。近日公開しますので、ぜひご参加ください。